

②国道294号 常総拡幅

受賞機関 茨城県 常総工事事務所

キーワード 圏央道へのアクセス強化、4車線化、災害時の対応

全建賞審査委員会の評価ポイント

茨城県西部を縦断する国道294号を延長22.5kmにわたり4車線化する拡幅整備事業。圏央道と常総ICで立体交差する道路で、圏央道の整備効果の地域への波及を向上させることに貢献している点や、圏央道供用との工程上の制約や平成27年度の関東・東北豪雨での鬼怒川決壊による現場の水没、災害廃棄物の仮置場としての現場活用等の災害対応に協力しながらも、事業を完成させた点が評価された。

また、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨においては、常総市内における鬼怒川の堤防が決壊したことなどにより、事業区間の一部が水没するなど被災したり、災害廃棄物の一時仮置きに苦慮していた常総市からの依頼により、常総ICの一部用地を仮置場として活用するなど、災害対応を優先しながらも効率的な施工に努め、事業進捗に大幅な支障を来すことなく事業を完了させることが出来た。

1. はじめに

国道294号は、県西地域を南北に縦断し、圏央道や常磐自動車道にも直接アクセスする重要な幹線道路である。

本路線は、交通量が非常に多く、従来の暫定2車線では主要な交差点付近を中心に交通渋滞が発生していたことから、平成13年度より延長22.5kmにわたり4車線へと拡幅する事業に着手した。

当事業では、事業区間内に位置する圏央道常総ICのB区間整備も一体的に行い、平成31年3月に全線の4車線化が完了した。



完成状況

2. 事業の概要

平成29年2月に県内区間が全線開通となった圏央道とは、常総ICで立体交差により直接アクセスし、当事業において、ランプ橋を含めB区間の整備も4車線化と一体的に行った。

B区間整備にあたっては、国土交通省やNEXCO東日本による工事と同時進行で進める必要があったため、工事範囲や進入路が錯綜するとともに開通目標に向けた工程上の制約があったが、工程などの協議調整を綿密に行いながら事業を進めた。

3. 事業の成果

事業完了により、事業区間以外を含めて取手市西部から栃木県境までの約50kmにわたる非常に長い区間が連続して4車線となり、県西地域における南北の軸として道路ネットワークの機能強化が図られた。

また、県内の円滑な移動はもとより、圏央道の開通とあわせ県外まで含めた広範囲における移動時間の短縮が図られ、地域の発展に大きく寄与している。



常総ICとの接続部

4. おわりに

圏央道の整備効果の一つとして沿線への企業立地が進んでいるが、当事業区間の沿道においても、土地区画整理事業や工業団地造成などの面整備が進められている。

本路線の整備により圏央道へのアクセスが向上することで、その整備効果を地域に波及させることにつながっており、県西地域の発展に一層貢献することが期待される。

賛助会員 新井土木(株)、石塚産業(株)、(株)菊池土建、(株)クシタ建設、(株)下妻建設、塚田建材(株)、(株)根本工業、(株)端工務店、初沢建設(株)、ライナー建設(株)